



## 年 頭 所 感

規格建築部会長  
森田 俊作  
大和リース株式会社 社長

平成 24 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素より規格建築部会の活動に多大の御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は規格建築部会にとって大きな激動の一年でした。平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分、三陸沖を震源地とするマグニチュード 9・0 の地震が発生し、宮城県北部では震度 7 を記録しました。この地震に伴う大津波によって岩手県、宮城県及び福島県はじめ東日本沿岸では壊滅的な被害が発生し、福島第一原子力発電所では深刻な原子力事故が発生しました。

今回の大震災は、その被害が極めて広域に及ぶだけでなく、大規模な地震と津波に加えて原子力事故が重なるという甚大な複合災害となりました。亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますと共に、今なお厳しい状況にある被災地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当部会では地震発生翌日の 3 月 12 日に「災害対策本部」及び「応急仮設住宅建設本部・管理本部」を設置すると共に、岩手県、宮城県及び福島県に現地建設本部を立ち上げ、岩手県、宮城県及び福島県からの建設要請を受け、国土交通省の御指導の下、早期の応急仮設住宅建設に向け活動を開始しました。会員会社の皆様には厳しい環境の中、昼夜をとわず一丸となって建設に御尽力をいただきました結果、発災から 6 カ月（9 月末）で岩手県 7 7 0 2 戸、宮城県 1 4 3 1 0 戸、福島県 6 3 4 3 戸、合計 2 8 3 5 5 戸を要請工期通りに無事完成・引渡しする事が出来ました。その後寒さ対策等の追加工事要請を請け、現在も継続して対応に取り組んでおります。建設に従事された皆様の御苦勞に感謝いたすところであります。

今後共、応急仮設住宅設置期間中の維持管理等については建設に際した以上

の御協力を重ねてお願い申し上げます。

当部会として今回の大震災の経験について、対応面での反省も含め十分に検証し、そこから得られた教訓と合わせて次世代にしっかりと伝え、情報の共有を図っていくことが重要と考え、応急仮設住宅記録集を作成しております。今後の災害対応の参考になればと願ってやみません。

昨年の災害は東日本大震災の他、9月の台風12号集中豪雨による災害等、多数災害が発生しており、災害に関する迅速な対応が求められております。

当部会は昨年各地方自治体が主催する防災訓練に参加し、応急仮設住宅の「モデルハウス」及び関連写真パネル等を展示し、被災者支援活動への広報を行っております。また、災害発生後の応急仮設住宅の迅速な建設を目的とした自治体の図上訓練に参加し、初動体制を迅速に確立できるよう協力しております。加えて日頃より厚生労働省、国土交通省及び経済産業省並びに都道府県との間で、応急仮設住宅の建設に関する御意見を伺う等、災害対策業務を円滑に推進するにあたっての活動も実施しております。

これら諸活動をするにあたり、応急仮設住宅建設関連資料集、建設記録集の更なる御理解をいただくべく努めております。

我が国経済は東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にある中で、景気の持ち直し傾向が続くことが期待されていますが、会員の皆様の御協力・御支援を賜り社会に貢献する使命を果たしてゆく所存です。

本年も皆様方の一層のご発展とご健勝を祈念致しまして年頭のご挨拶とさせていただきます。